

ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況 [2012 年第 4 四半期 (10 月～12 月)]

～脆弱性の届出件数の累計が 8,000 件を超過～

IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：藤江 一正）およびJPCERT/CC（一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター、代表理事：歌代 和正）は、2012 年第 4 四半期（10 月～12 月）の脆弱性関連情報の届出状況^(*)を「脆弱性関連情報に関する活動報告レポート」としてまとめました^(**)。<http://www.ipa.go.jp/security/vuln/report/vuln2012q4.html>

脆弱性届出状況の報告

2012 年第 4 四半期の IPA への脆弱性情報の届出件数は 220 件で、内訳はソフトウェア製品に関するものが 44 件、ウェブサイト（ウェブアプリケーション）に関するものが 176 件でした。これにより、2004 年 7 月の届出受付開始からの累計は、ソフトウェア製品に関するものが 1,467 件、ウェブサイトに関するものが 6,700 件、合計 8,167 件となりました。

また、届出のうち 2012 年第 4 四半期に修正を完了したものは、ソフトウェア製品については 25 件（修正完了率 55%）、ウェブサイトについては 113 件（修正完了率 70%）でした。

届出のあった脆弱性関連情報のうち、特に注目すべき事例について以下に簡単に紹介します。

HTTPS の設定不備の脆弱性について（レポート 1-1.参照）

ウェブサイトで正しく HTTPS の設定が行われていないケースが報告されています。例えば、個人情報を送信するとき、送信先の URL が HTTPS に設定されていても、その個人情報を利用者に入力させる画面の URL が HTTPS となるよう設定されていない場合があります。この場合、経路上で入力画面が改ざんされてもウェブサイト閲覧者はそのことに気付くことができません。ウェブサイト運営者は入力画面にも HTTPS を設ける必要があります。

DOM ベースのクロスサイト・スクリプティングの脆弱性（レポート 1-2.参照）

JavaScript によるリファラ情報の解析処理に存在するアクセス解析ソフトの脆弱性など、DOM ベースのクロスサイト・スクリプティング（以降 DOM Based XSS）の脆弱性が数多く報告されています。DOM Based XSS においても、通常のクロスサイト・スクリプティング同様に外部から入力されたスクリプトを出力させないように対策することを推奨します。特に「DOM 操作のメソッドを使用する」、「出力内容に応じてエスケープ処理を施す」、「JavaScript ライブラリの問題の場合はライブラリをアップデートする」といった対策が実施済みであるかの確認が必要です。

■ 本件に関するお問い合わせ先

IPA 技術本部 セキュリティセンター 渡辺／大森
Tel: 03-5978-7527 Fax: 03-5978-7518
E-mail: vuln-ing@ipa.go.jp
JPCERT/CC 情報流通対策グループ 古田
Tel: 03-3518-4600 Fax: 03-3518-4602
E-mail: office@jpcert.or.jp

■ 報道関係からのお問い合わせ先

IPA 戦略企画部広報グループ 横山／佐々木
Tel: 03-5978-7503 Fax: 03-5978-7510
E-mail: pr-ing@ipa.go.jp
JPCERT/CC 事業推進基盤グループ 広報 江田
Tel: 03-3518-4600 Fax: 03-3518-4602
E-mail: pr@jpcert.or.jp

(*) ソフトウェア等脆弱性関連情報取扱基準：経済産業省告示に基づき、2004 年 7 月より開始しました。IPA は届出受付・分析、JPCERT/CC は国内の製品開発者などの関連組織との調整を行っています。

(**) 2012 年度第 4 四半期分より、届出状況について「脆弱性関連情報に関する活動報告レポート」として報告します。